



# 星川だより

# 12月



## 熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

### 「平和」について考える

栗原邦俊

「星川だより」への原稿依頼があった。簡単に引き受けて、さて困った。どのような記事を書いたらよいか呻吟した。結局「平和とは何か」について書くことにした。しかし、「平和」とは何か？それは戦争や戦争状態になつていないことと断定できるであろうか。

Wikipediaでは、「平和とは、一般的に社会の状態が戦争や内乱騒擾などで乱れていないこと。現実には国家の抑止力が内外の脅威を抑制している状態のこと」と定義している。しかし、この内容では不十分と思う。私は、我々一般国民・庶民が現在も更に未来に向けて経済的にも文化的にも社会的にも比較的豊かで、一定の安定・安心した生活が送れることが最低の条件ではないだろうかと思う。

さらに、「平和」とは、民主主義が徹底し、言論及び思想の自由が徹底していることが最も重要だろうと思つている。徳川時代は、その初期と末期を除くと戦はなかった。だからといってそれが本当の「平和」の時代だったと断定できようか。士

農工商という身分制度で「士」から農民・商人等に対する過酷な取り立て、「士」に対して絶対に抵抗できない時代であった。これが「平和」の世であったといえるだろうか？

日本総合研究所（一財）会長で多摩大学学長も兼ねる寺島実郎氏は「人はなぜ戦争をするのか」（岩波書店）の中で「日本人として、忘れてはならないことがある。「なぜ戦争になつたか」という重い省察である」日本近代史を直視するならば、真珠湾攻撃直前の状況よりも、戦争に至る淵源として第一次世界大戦期は「運命の五年間」であるとしっかりと認識すべきだ。一〇〇年後の「五年間」を今生きているといふ自覚が重要だと思ふ。「日本を取り戻す」といつて再登場した安倍政権が取り戻すべき日本が「戦前の日本」であることが鮮明になってきた今、それがもたらす結末を我々が鋭く見抜かねばならないと述べている。

即ち、歴史は繰り返すといわれるが、とりわけ日本人は、過去の歴史の検証をほとんど行わず且つ責任を取ろうとせず、失敗を学ぼうとしないのだ。

また、作家の半藤一利氏は「戦争と歴史」（幻冬舎新書）で「幕末・明治維新から日本近

代化の歩みは、戦争の歴史でもあった。日本民族は世界一優秀だといふ驕りのもと、無能・無責任なエリートが戦争に突き進み、メディアはそれを煽り、国民は熱狂した。私たちは歴史に何を学ぶべきなのか。「コチコチの愛国者ほど国を害する者はいない」「戦争の恐ろしさの本質は、非人間的になつていくことに気づかないことである」「日本人は歴史に対する責任を持たない民族」と断言している。

次に、私たちの身の回りで見ていることに注目してみよう。国境なき記者団といわれる世界組織が、日本は二〇一八年において世界先進国の中で、「報道の自由度」は最下位に近く「六七位」だと位置づけた。因みに上位国はノルウェー、スウェーデン等の北欧の国々であった。アジアでは韓国にも抜かれたようだ。民主党政権で鳩山内閣時は一二位にランクされていた。ランクが低いから一概に民度が低く報道の自由度が低いと断定はできないが、一応のメルクマールになると思われる。なぜ低下したかは、断定できないが、安倍政権での特別秘密法、共謀罪法、憲法を踏みしめた「安保法」の強行採決や朝日新聞、東京新聞等の比較的リベラルな新聞等への圧

力、テレビ等への締め付けが影響しているといわれている。

政府や官僚機関はモリカケ問題に見られる公文書の改竄等全く国家机关の役割を果たしていないといつても過言ではない。それにも関わらず、安倍内閣に対する支持率は一向に下がらない。

安倍内閣べつたりの新聞が存在し、それも日本一の販売部数を誇っている。テレビの昼のワイドショーではその傾向が顕著である（徹底的な嫌韓報道など）。若者の多くは新聞すら読まないようだ。ニュースソースはネットの偏った記述で有り、且つ断片的なものですべてを把握している錯覚に陥っているようだ。すべてがダメだといわれないが、文書を読んで著者の思考を深く知ろうとしない。長文はもとより短文でも文書



への理解力欠如が深刻なように思われる。

私たちはこのような状況に對してどのように対応したら良いのか。一人ひとりがキチンと冷静に報道を整理・吟味し、決して、「熱狂」したり「炎上」させたりせずに、しっかりと間違った政府の政策には「反対」「撤回」等の意思表示を粘り強くしていくことが重要であると思う。

さいたま市の「九条俳句」の粘り強い闘いと勝利、中止に追い込まれた「あいちトリエンナ1レ2019」が不十分であったが再開されたこと等身近で仲間たちが少しずつであるが闘っている。「平和」は闘い続けなければ維持できないのではないか。

最後に、私はドイツ、オランダ、北欧等ヨーロッパを中心に旅行してきた。できるだけ夜のバブやレストランへ出かけて、若者(学生を中心)に私の拙い英語で話をしてきた。結果として、シリア等からの難民の受入には賛成できないけれども、多くの移民や難民が自国民のやりたがらない3Kの仕事(キツイ・キタナイ・キケン)に就いていて国の下支えをしていることを理解しており、ある程度はやむを得ないとしている。またEUの誕生した経緯を理解

している者が多いのには驚いた。そして、政治や社会に對してはつきり意見をいう若者が多いのにも驚いた。まだEUは大丈夫かなと思った次第である。それに引き換えわが日本はどうか。学生に政治や社会に對して質問すれば、変な又危険な叔父さんにとらわれる。

しかし、落胆ばかりしてられない。東京新聞の望月衣壘子さんと安保法反対闘争で最前線に立って闘っている菱山南帆子さん(嵐を呼ぶ少女と呼ばれて)はるか出版の著者)の講演を聴く機会を得た。二人とも若いにも関わらずしっかりと自分の意見を述べ、望月さんは事実を記事に書き、菱山さんは行動に移している。こうした若者が存在していることにすごく感動した。安保法反対闘争で活躍したSEALDsのメンバー

は学園に戻りそれぞれ大学院生活をしているようだ。(高橋源一郎×SEALDs 民主主義って何だ?)河出書房新社の著書より)。彼らがまた一段と成長して社会運動等に戻ってきてほしい。

(熊谷空襲を忘れない市民の会会員)



戦争反対を叫ぶ SEALDs

### 第五福竜丸展示館ツアーのお知らせ

住所 江東区夢の島 2-1-1 夢の島公園内  
日にち 12月10日(火)  
集合 9時40分 熊谷駅改札  
出発 9時57分 新宿湘南ライン  
池袋乗換、有楽町線経由  
到着 11時33分 新木場  
昼食 東京スポーツ文化館レストラン  
見学 13時~14時30分(予定)  
解散 見学終了後解散となります。  
但し、解散後希望者は豊洲市場見学  
および簡単な懇親会を予定します。  
主催 熊谷空襲を忘れない市民の会  
担当 米田 (090-2491-1263)



### ~ キャンパのお願い ~

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願い致します。  
なお、会計報告はこの紙面により行います。

#### ゆうちょ銀行

口座記号・記号: 00100-7-265321  
加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会  
口座名称カナ: クマガヤクウシュウヲワスレナイ  
シミンカイ

#### 他行からの振り込みの場合は

店名(店番): 〇一九店 (019)  
預金種目: 当座  
口座番号: 0265321

#### 会計報告 (2019/09/25~2019/11/22)

収入: 18,500 円  
支出: 1,000 円  
残高: 111,015 円

編集委員 吉田庄一 米田主美  
連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)  
メール imajn241@gmail.com  
HP <http://www.peace-kumagaya.org/>

## 熊谷平和講座

### 熊谷平和講座

## 「ベルリンの壁」崩壊 30年 冷戦終結と現在

熊谷空襲を忘れない市民の会では、毎月一回、加藤一夫さんを講師に平和について学んでいます。今回はその23回目になります。どなたでも参加できます。

過去の講座(最近6回)  
第17回 移民難民外国人労働者問題 第20回 ポリエゾム  
第18回 空襲の歴史と空襲犠牲者(遺族) 第21回 戦後30年を振り返る  
第19回 戦後20年(1945年) 出発点に立ち戻る 第22回 「戦後民主主義」を検証する

日時: 12月7日(土) 14時~15時半

場所: 熊谷市市民活動支援センター 会議室  
熊谷市曙町5-67(熊谷駅徒歩約10分)

講師: 加藤一夫さん

熊谷市在住、元駒岡福祉大学学長、名誉教授、  
熊谷空襲を忘れない市民の会賛同人。

参加費: 無料 (カンパ歓迎)

問合せ: 070-5551-7734 (ひがし)

主催: 熊谷空襲を忘れない市民の会  
(HP: <http://www.peace-kumagaya.org/>)

<1月の熊谷平和講座>  
1月13日(月・祝)9時半~市民活動支援センター 講師:加藤一夫さん  
第24回熊谷平和講座(安保法制と安全保障 4年後の課題) 無料



追悼 木内みどりさん  
十一月八日、急性心臓死で永眠したとの報道。突然の訃報、悲しい限りだ。ツイッターで何回かやり取りさせてもらったことがある。気さくで揺るぎない信念の人だった。彼女の司会はもう聞けない。ご冥福をお祈りいたします。下の写真は十一月十七日に彼女がツイッターにアップしたものの。



熊谷空襲を忘れない市民の会では、月1回「熊谷平和講座」を開催しています。奮っての参加をお願いします。